

文学

三鷹

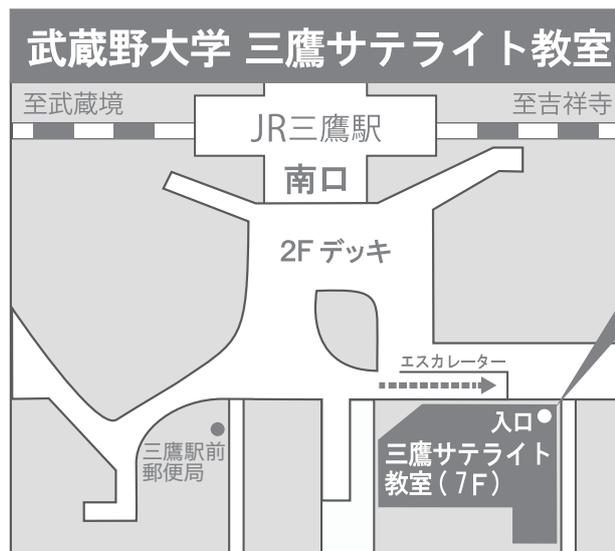
0401035

## 漢詩を読む

— 時代と人と —

受講料 (振込額)	10,000円				
必携テキスト	——				
講座概要	曜日	水曜日		日程 7月13・27日 8月24日 9月14・28日	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全5回	定員		20名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	元國學院大學講師 <b>小笠原 博慧</b> (おがさわら ひろとし)				
	1941年生まれ。1965年、私立高校教諭(漢文)。1974年、公立高校教諭(国語)。1999年、同中学・高校校長。その間1975年、國學院大學講師(漢文学)。1982年、市立大月短期大学講師(文学、日本語)。1988年、武蔵野女子大学講師(仏教学、日本仏教史)。同大学仏教文化研究所所員。1988年、福泉寺住職。				
内容	<p>北宋の末期は、宋詩のもっとも輝かしい時代でした。とくに蘇軾(東坡)は、屈折した生涯によって、逆に作詩の魂を養うこととなり、表現の技巧のみならずすべての面で宋代第一の詩人です。</p> <p>また、“詩”という長短句の流行は、宋代の特色の一つです。数篇の作品を読んでおきたいものです。蘇軾と詞は、時は逆戻りしますが、改めてみておきます。</p> <p>都を臨安(杭州)に移した南宋の中期は詩の黄金期となり、先に読んだ陸遊などがいます。末期では信じ難い蒙古の制服による亡国となり、文天祥をはじめとする民族(愛国)詩人たちの悲痛な号泣に似た詩篇がたくさん作られました。</p>				
	<p>① 7月13日：北宋後期の詩(蘇軾、陳師道など)</p> <p>② 7月27日：詞(李清照、歐陽修など)</p> <p>③ 8月24日：南宋中期の詩(楊万里、朱熹など)</p> <p>④ 9月14日：南宋末期の詩①(文天祥、謝枋得など)</p> <p>⑤ 9月28日：南宋末期の詩②(辛棄疾、戴復古など)</p>				

# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013  
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル7F  
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・「受講の手引き」「新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのお願い」を必ずお読みの上、ご参加ください。

《徹底のお願い》

☆マスクは清潔な不織布で、鼻口を覆ってください。